文化・芸術

『明星』15号挿絵　星夜

1901（明治34）年、木版・紙
17・8センチ×13・2センチ

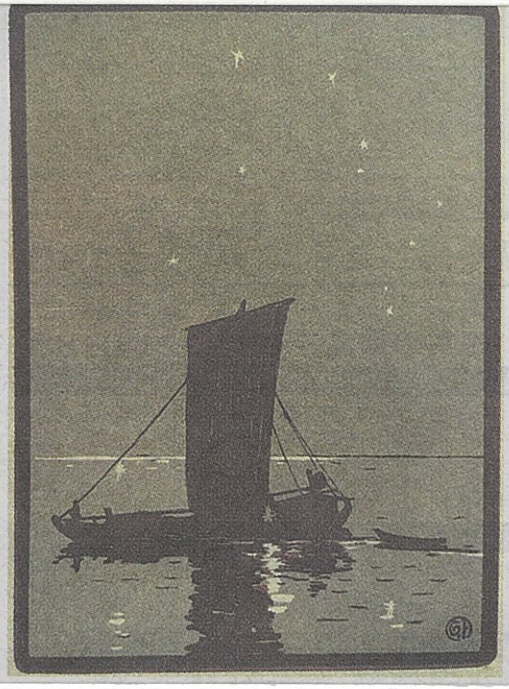
藤島武二（1867～1943年）

藤島武二が、歌人与謝野鉄幹が主宰した文芸雑誌「明星」にさんぜんと登場したのが、1901年。05年まで、その遅い留学に出発する直前まで同誌を代表する画家として活躍しました。第10号から挿絵やカットを、第11号からは表紙を担当しています。

「明星」は、00年4月に創刊され、08年11月に通巻100号で終刊となった雑誌で、文学と美術の共生を目指しました。藤島が携わったのは、本誌の最盛期といわれる時代です。「版」表現の豊かさを意識下に描いた甘美な表現には、当時、藤島が目にしていたチェコの画家、アルフォンス・ミュシャのポスターの影響がしばしば指摘されます。

本作は、同誌初期には珍しい2色刷りの木版画です。静かな作風ながら、まさに誌名の「明星」をとらえる憧憬（しょうけい）が漂っています。

本作は、15日からの特集展示「コレクションによる日本の木版画」で展示します。

（小此木）

《名画の扉》　大川美術館コレクションから